

図書館員のひみつの本棚 第138回

10月31日はハロウィン🎃。今月は魔女の物語をご紹介します。

『魔女のたまご』

マデライン・エドモンドソン／作 ケイ・シューロー／絵 掛川 恭子／訳
あかね書房 1978年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆ 中学生——
高校—— 一般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

アガサはすごく年をとったへそまがりの魔女。まいご山のとっぺんにあるワシの巣にたったひとりで住んでいます。友達なんかいません。仕事は町へ行って人々を怖がらせること。

ある晩、アガサが仕事で町へ行っている間に、お母さんカッコーがアガサの家にやってきて、置いていた肩掛けに卵を産んで、どっかへ行ってしまいました。

仕事からもどったアガサはびっくり！卵を産んだ鳥を探しますが、見つかりません。他の母さん鳥たちが心配して卵を引き取ると申し出ますが、人がほしがるものはあげたくないのがアガサの性分。なんとか自分で卵をあたため、ヒナをかえし、マジョドリと名付けました。

大きくなったマジョドリは、アガサのたった一人の大事な友達になります。

けれども、秋が深まりだす頃、マジョドリはふさぎこむようになりました。心配したアガサに、マジョドリは自分も他の鳥のように南に旅立つことを告げます。

<子どもに手渡す時のポイント>

まもなく初版から40年を迎える物語ですが、今でも全く色褪せていません。ハロウィンが一般的となっている今の子どもたちには、この時期が手渡す一つのチャンスかもしれません。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか